

令和7年度 調布市立若葉小学校 学校経営計画（学校長 内藤 みゆき）		
学校の教育目標		
◎かしこく（しっかり考え、すすんで学ぶ子） ○やさしく（思いやりのある子） ○たくましく（明るくたくましい子）		
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
「笑顔あふれる『たい※』が泳ぐ学校」※「～したい」「やってみよう」等といった前向きな思いやエネルギー ～言葉と向き合いながら心を耕し考える力を伸ばしていく子供～		
ビジョンの設定理由 （本校の現状と課題）	・ 明るく素直な児童が多い。しかし自己肯定感が低く失敗する事に過敏で、主体的な取組に課題をもつ児童も少なくない。 ・ 児童数に比して校地が狭く、プレハブ校舎による校庭の狭小化等もあり、活動に様々な制限が生じる施設環境である。 ・ 他者とのコミュニケーションが拙く、集団生活に苦手さやストレスを感じる児童が増えている。	
中期的な経営目標		
① 自己指導能力を高め、自他の命を大切にし、自律した言動がとれる児童を育成する。 ② 自己肯定感を高め、基礎基本の定着を図り、自身の学びを自覚させるとともに、主体的で対話的な学びを通して考えを深める児童を育成する。 ③ 健康保持・体力増進への意識を高め、自ら考え判断し、粘り強く実践する児童を育成する。 ④ 言語能力と情報活用能力の向上を目指し、言語環境を整え充実させるとともに、モバイル端末の効果的活用を情報モラル教育と一緒に推進する。 ⑤ 特別支援教育を推進し、SS や SC、SSW、巡回指導教員等を含めた全教職員及び関係諸機関との組織的連携を強化していく。 ⑥ 学校運営協議会委員を中心に保護者・地域との連携を密にし、教育活動の充実と安全確保を図る。		
人・組	職層に応じた自身の役割を自覚し、学校経営方針を実現させるための取組を意識し、工夫しながら協働的に動くことができる組織を構築する。	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
①月 1 回の心の健康観察、年 3 回の児童アンケートや月 1 回の校内委員会といじめ対策委員会週 1 回の生活指導夕会での情報共有を、個に応じた支援や組織的対応につなげ、児童の安心感につなげる。	①主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に取り組むとともに、児童の学習意欲を喚起し、考えることや意見交流することの楽しさを味わわせる授業づくりに努める。	①体力向上を図る取組（体育朝会・縄跳び月間・休み時間等の第四中校庭借用〈6 月迄〉・クラブ活動での NTT 施設借用・屋上の一部運動場化と活用）を工夫し、運動の楽しさを味わわせる。
②規律の定着を図るとともに自己指導能力を高める。また、心の教育を充実させ、自他の命を尊重する人権意識を基盤に「いじめはどんな理由があってもいけない」という意識の向上を図る。	②教科担任制や交換授業の推進を授業改善につなげ、児童にとって分かる喜びが実感できる授業づくりと教員の指導力向上を同時に目指す。	②教科担任制や交換授業、交換 HR 等を発達段階に応じ全学年で推進する。学年全体で学年の児童を見ていく意識を高め、多面的な児童理解と相談しやすい環境づくりにつなげていく。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
①児童アンケートの肯定的回答の目標 「学校が楽しい」：90%以上、「困ったり悩んだりした時に相談できる大人がいる」：70%以上	①児童アンケートの肯定的回答の目標 「授業に主体的に取り組んでいる」：昨年度比＋3Pt 以上	①学校評価アンケートの肯定的回答の目標 「健康教育」：70%以上
②児童アンケートの肯定的回答の目標 「基本的生活習慣」：90%以上、「いじめはどんな理由があってもいけない」：95%以上	②児童アンケートの肯定的回答の目標 「授業がよく分かる」：昨年度比＋3Pt 以上	②児童アンケートの肯定的回答の目標 「先生は、自分のよいところを認めてくれている」：85%以上
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
④ 言語能力・情報活用能力の向上	⑤ 特別支援教育の推進	⑥ 地域との連携
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
①「聴く」指導の徹底を図る。考えを「もつ」「表す」「伝え合う」「深める」授業実践を積み重ね、考えを整理し言語化する活動を通して言語能力向上を図る。また、読書活動を推進し、言語感覚を養うとともに豊かな言葉の獲得を目指す。	①校内委員会を充実させ、迅速な情報共有と支援体制の構築につなげる。校内委員会を SC、SSW、校内通級教室指導教員の参加が可能な日に設定し、協議の充実を図る。通級指導教員による特別支援教育ミニ研修会を実施する。	①「地域学校協働本部」のコーディネート力を活かし、ゲストティーチャー等、外部人材の活用による体験的学習の充実を図る。CS の理解を得ながら「放課後教室」「漢字検定」の円滑な実施につなげる。
②モバイル端末の効果的活用を推進し、教員の指導力と児童の情報活用能力を同時に向上させる。（指導計画の確実な実施・ICT 朝会による情報モラル教育の充実）	②特別支援教室での指導が在籍学級での指導・支援に活かされるよう、特別支援教室専門員や特別支援教育コーディネーターを窓口として円滑な連携を図る。	②新体制となる PTA や地域学校協働本部コーディネーターとの連携を図り、春の体育的行事や秋の学芸的行事の充実につなげる。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
① 学校評価アンケートの肯定的回答の目標 「言語活動」：80%以上 「読書活動」：80%以上	①学校評価アンケートの肯定的回答の目標 「特別支援教育」：75%以上	①学校評価アンケートの肯定的回答の目標 「地域学校協働本部」：80%以上 「体験的な学習活動」：80%以上
②学校評価アンケートの肯定的回答の目標 「基礎的な学力」「ICT 機器の活用」「ICT 機器のルール」：各項目ともに90%以上	②「個別指導計画」と「個別的教育支援計画」を100%作成し、巡回指導教員と学級担任との連携の場を設ける。	②月 1 回の協働本部コーディネーターとの打ち合わせ及び行事前の PTA との打ち合わせを確実に実施する。

人材育成・組織運営
・ 主幹教諭及び各部主任教諭をリーダーとする校内組織の質的向上及び OJT の充実を図る。（若手教員の育成・主任教諭の活用） ・ 職層に応じた職責の自覚を促し、校務改善及び指導力の向上を図る。